

令和2年度 養護教諭部会研究計画

I. 研究主題

健康について考え、
心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして

II. 研究目的

1. 研究の経過

平成16年度から平成25年度までの10年間、「健康について考え、自分らしく生きていくことができる子どもの育成をめざして」という研究主題のもと、子どもたち個々の健康・発達課題に寄り添い、対応や支援のあり方を研究し実践してきた。子どもたちの健康課題は、ますます複雑で多様化している。その点を踏まえ、今後も養護教諭の特性を生かした養護実践を継承しつつ、さらに深め発信していくことが重要であるとおさえた。その課題解決に向けて、平成26年度から新たな研究主題を設定している。

新しい研究主題のもと、各ブロックは具体化した主題を設定し研究を推進してきた。さらに各ブロックの連携を深めることにも重点を置き、今日的な課題を共有し、より研究を深めてきた。さらに、二次研究協議会の分科会は、研究計画に基づく積極的な討議があり、理論・実技研修会では、会員一人ひとりの課題の解明と日常の養護実践に結びつく成果をあげている。

令和2年度は、多くのブロックで新たな研究にとりくむことになる。課題を明らかにし、研究の基礎を作り上げていく年度としたい。また、横のつながりを大切にし、他ブロックの研究も積極的に学びとるとともに、それぞれのブロックの研究にいかしていくようにすすめていきたい。

2. 主題設定の理由

近年の少子高齢化や都市化、急激に進展している情報のグローバル化など、社会環境や生活様式の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与え、生活習慣や環境に起因する疾患やアレルギー性疾患、新たな感染症の増加、心の病などの健康課題を多様化させている。同時に、人間関係の希薄化、幼少期に経験することが望まれる様々な生活体験・社会体験・自然体験の機会の減少は、他者への関心や愛着、信頼感を育てる大切な機会を減少させ人とのかかわりをつくることやコミュニケーションをとることがうまくできない子どもたちの増加につながっているように思われる。また、いじめ・不登校・貧困・虐待など様々な問題は子どもたちが安心して生活できることが難しい状況を生み出しており、児童生徒の健康問題との関連が深い。

これらの健康課題において、対人関係によるストレスや不安などで、からだに不調をきたす事例もあり、その背景には子どもたちの自己肯定感や自尊感情の低さが存在することが少なくない。

このように複雑で変化の激しい社会において、私たちは、子どもたちの自己有用感・自己肯定感（自尊感情）を高め、自分自身も他者をも大切にできる子どもを育てたいと考える。それをもとに健康に関する知識・技能をもち、自ら意思決定し・行動選択できる力、さらには他者とかかわる力を持つ子どもを育てたい。

そのためには、養護教諭として、子どもたち一人ひとりを大切に受容し、職務の特性を生かした実践をとおして具体的な対応や支援のあり方を探求することが重要と考える。

具体的には、常に「養護」とは何かを問い続け、子どもの健康と人権を守り育てる養護実践を深めながら、確かな連携方法を模索し、家庭や地域社会、教職員に対する効果的な情報発信の方法を検討するとともに、健康課題について、家庭と学校が課題を共有しながら学校全体・地域社会全体で対応していく必要がある。

以上のように、複雑かつ多様化した子どもたちの健康課題に対し養護教諭の視点を大切にしたいとくみが必要と考え、標記の研究主題を設定した。

Ⅲ. 研究内容

《研究内容 1》
子どもたちの実態を把握し問題点を明確にする。

《研究内容 2》
子どもたちが自己肯定感をもち、自分らしい選択をし、人とのつながりを大切にしながら生きていけるよう支援のあり方を検討する。

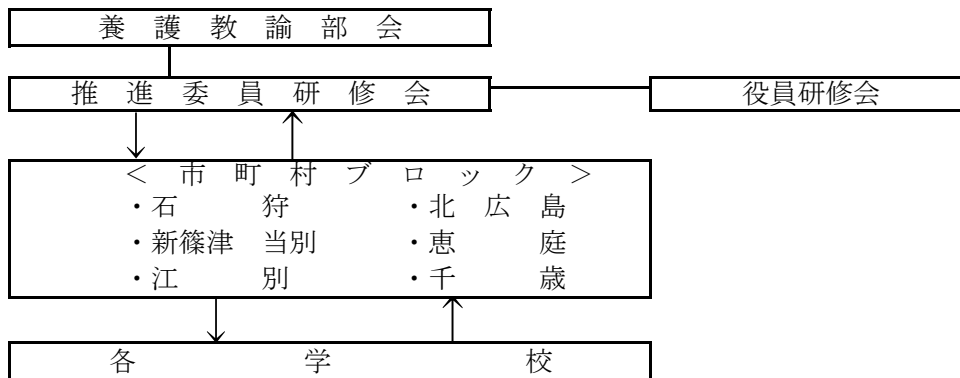
《研究内容 3》
保健室で気がついた子どもたちの実態について、教職員・家庭・社会にどのように発信し連携していくのか、その方法を検討する。

Ⅳ. 研究方法

1. 会員一人ひとりの日常実践に基づいた市町村ブロックの共同研究を推進する。
令和2年度は多くのブロックで新しい研究にとりくむことになるので、課題を明らかにし研究の基礎を作り上げていく年度とする。
2. 理論研修会実技研修会を開催し、日常実践や今日的な課題解明につなげていく。
3. 各ブロック間の連携を深め、より一層、研究が深まるとりくみをする。
特に、部会・ブロック情報やホームページを通して会員及びブロックの交流を図るとともに研究に関する情報の充実に努める。

Ⅴ. 研究体制（組織）

1. 役員研修会は、部長・副部長・事務局長・事務局次長・研究員各1名の計5名で構成する。
2. 推進委員研修会は、市町村ブロックより各1名と、役員5名の計11名で構成する。
3. 研究推進のための組織を明確にし、連携を図りながら研究を推進する。



Ⅵ. 年間計画

月	研修会・その他	内容
4月	推進委員研修会①	研究計画の確認、実技研講師打合せ
	専門部会第一次研究協議会	理論研・実技研の計画
5月	役員研修会①・推進委員研修会②	研究推進、部会情報発行①
7月	役員研修会②・推進委員研修会③	ブロック情報発行①
8月	役員研修会③・実技研修会	理論研講師打合せ
9月	役員研修会④・推進委員研修会④	第二次研究協議会の開催要項と運営、部会情報発行②
10月	第二次研究協議会・理論研修会	
11月	役員研修会⑤	第二次研究協議会反省と見解、次年度実技・理論研講師選定
12月		
2月	役員研修会⑥・推進委員研修会⑤	研究・研修会運営の反省、ブロック情報発行②
3月		次年度研究計画、部会情報発行③、資料集発行

令和2年度の研究について

1. 研究の経過について

26年度から「新しい研究主題」のもと研究にとりくみ、各ブロック毎に具体化した主題を設定し研究を推進してきた。

もう一方では、各ブロック間の連携を深め、今日的な課題を共有し、その成果を積極的に管内に還流することで、個々の研鑽に結びつく成果があった。

二次研究協議会の分科会では、研究計画に基づく討議の柱を設定することにより、討議が焦点化され深まった。また、理論・実技研修会においては、日常の養護実践の質が高められ、会員一人ひとりの課題の解明、さらに研究の深化につなげることができている。

令和2年度は、引き続き同じ研究主題の下で進めることとするが、2年継続研究の1年次目にあたり、多くのブロックで新たな研究にとりくむことになる。課題を明らかにし、研究の基礎を作り上げていく年度としたい。また、横のつながりを大切に、他ブロックの研究も積極的に学び取るとともに、それぞれのブロックの研究にいかしていくようにすすめていきたい。

2. 研究計画について

「研究主題」「研究目的」「研究内容」「研究方法」「研究体制、組織」の5項目については、平成26年度からの研究同様に進める。

3. 令和2年度の研究発表ブロック

- 1) メインブロック・・・石狩（10分）
- 2) 他のブロック・・・研究途中の年のブロック（2分以内）
・・・研究まとめの年のブロック（5分以内）

4. 会場 恵庭

5. レポート作成

- 1) 研究の「成果と課題」がわかるレポートを作成する。
- 2) 詳細については、研究担当より新年度に提案する。

6. 第二次研究協議会のもち方

- 1) 第二次研究協議会の中で理論研修会を設定する。（実技研修会は、別日に開催）
- 2) 分科会は6～8程度の分科会を設定する【分科会のテーマは、検討し提示する】
 - ① 研究計画に基づいた討議の柱を設定し、討議をする。
 - ② ブロックの研究が深まるよう、関連のある討議をする。
 - ③ 日常の執務の疑問や課題について取り上げて話し合いをする。
- 3) 掲示物・指導資料について
 - ① 作品・資料は、ブロック毎に出していただき、展示などで紹介する。
 - ② 展示方法については、日程と合わせて検討していく。